

# 居場所の大人にできること

## ～子ども食堂編 転機～

馬渡 徳子

昨年度末に転機を迎えた子ども食堂。毎月の運営会議は重苦しい時間となっていた。

そのような時期に、化学反応が起きた。3月に金沢大学を卒業する学生が、下級生たちにボランティアのバトンを渡してくれたのだ。金沢大学だけでなく、県内の他の三大学(県立大学、金沢工業大学、金城大学)の学部生、高校生(明倫高校)や社会人となってからも継続している方々で、彼らは能登半島地震後の二次避難所でのボランティア活動で出逢い、その後も一緒に復興支援イベントなどを継続しているとのことだった。

三月の初日から、様々な年代の子どもたちとバウンダリー(境界線)を意識しながらかかわっている姿を観ていて、「ボランティア活動を行うときの研修は、どういった機会があったの?」と聞くと、自主的にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの

主催する災害支援研修で学んだとのことだった。

かくして、学生たちの支援を得て、長く利用してきた子どもたちが「これからも守っていききたいお約束事」を作成し4月から表示をした。

GW明けからは、他の子どもたちの状況に構わず、大声をあげてはしゃいでいた子どもたちは、部屋で過ごす他の子どもたちの様子を観て、他の部屋を選んで自分たちのテリトリーをつくって食事をしたりゲームをしたりして過ごすようになっていく。

昨年秋から新たに参加している子どもたちとは、学生さんたちがもうしばらく時間をともにしてから、「ここがどんな場所になっているか、ここでの過ごす時間の要望」などをきいていくこととなった。

新年度に入ってから、学校や保育園



市役所、社会福祉協議会などから新規利用の問い合わせをたくさんいただくが、現時点ではお断りさせていただいている。

今しばらくは、昨年度までに利用継続してきた子どもたちとの時間を優先したいと運営委員会では考えている。

そのような中に、2016年頃から石川県内での子ども食堂の拡大と能登半島地震後に能登地区の広範囲に新たな開設支援を続けてきた団体(認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえの活動支援)が、**県内の子ども食堂マップを作成し、チラシとSNSにて県内の様々な施設と県民に拡げている。**我が子ども食堂も、開設準備期間中よりずっとご支援いただいていた。子どもだけでなく多様な世代が社会とつながる居場所の一つとなってほしいと願うばかりである。

次の一步は  
助けられ上手になろう  
そういう大人の姿を  
子どもたちに見せていこう